

イデックスオイルレポート ~For a week~

(株)新出光

【概況】

●10日、イスラエルのネタニヤフ首相は引き続き、イスラム組織ハマス掃討を目指してガザ最南部ラファへの地上作戦を強行する構えを崩しておらず、紛争拡大に伴う供給不安がくすぶった。しかし、午前発表された米ミシガン大消費者調査では、景況感の悪化と期待インフレ率の上昇が明らかになった。また午後にかけて、複数の連邦準備制度理事会(FRB)高官がインフレ警戒姿勢を強調したことで、年内の利下げ期待が幾分後退。高金利環境の長期化がエネルギー需要の減退を招きかねないとの懸念が広がったほか、ドル上昇を眺めて原油先物の割高感も意識され、相場は78.26ドルへ反落しました。

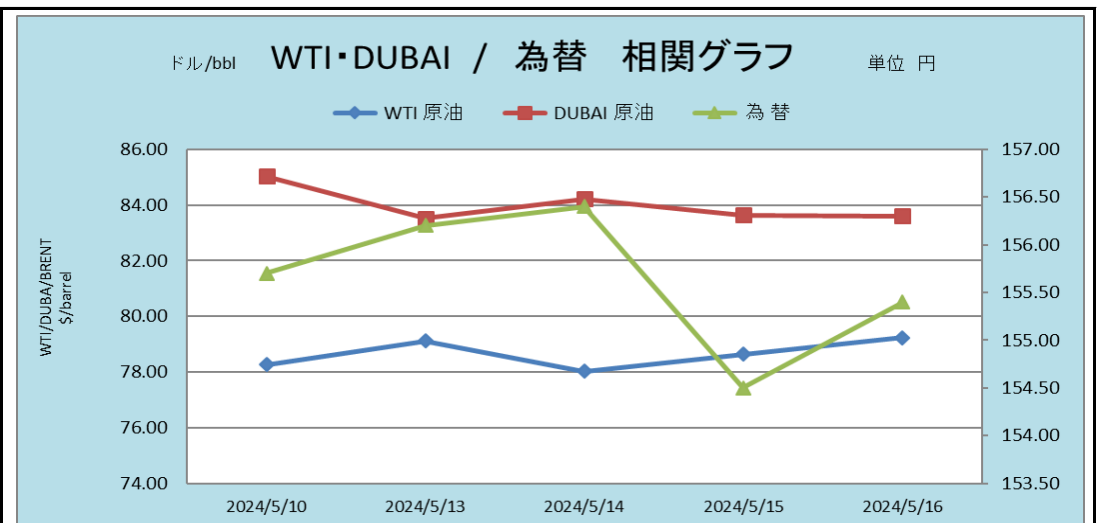
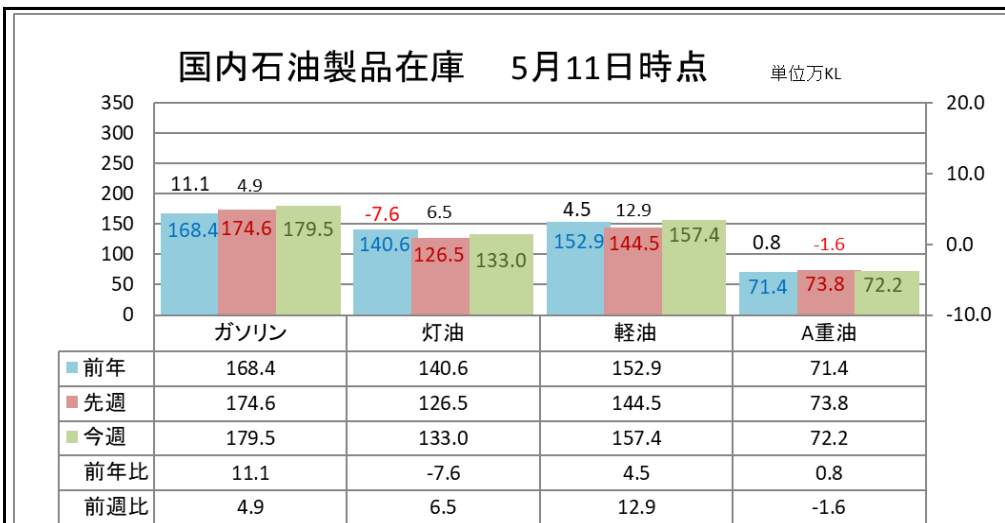
●13日、中国国家统计局が11日発表した4月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比0.3%上昇し、伸び率は前月から拡大した。世界最大の石油輸入国である同国の需要が改善しつつあると受け止められ、買いが優勢となった。全米自動車協会(AAA)が、25~27日のメモリアルデー(戦没将兵追悼記念日)の連休中に自動車旅行をする人数が、2000年以降で最大になるとの見通しを示したことも国内のガソリン需要が上向くと楽観的な見方につながり、相場は79.12ドルへ反発しました。

●14日、米労働省が朝方発表した4月の卸売物価指数(PPI)は前月比0.5%上昇と、市場予想(0.3%上昇=ロイター通信調べ)を上回った。根強いインフレ圧力を受け、景気鈍化に伴うエネルギー消費減速への警戒感が台頭。翌15日に米消費者物価指数(CPI)の発表を控え、利益確定の売りにさらされ相場は78.02ドルへ反落しました。

●15日、米労働省が15日朝方に発表した4月の消費者物価指数が前年同月比3.4%上昇した。伸び率は市場予想と一致し、前月(3.5%上昇)から3カ月ぶりに鈍化した。変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア指数3.6%上昇と、3年ぶりの低水準となった。さらに、4月の米小売売上高は前月比横ばいと、市場予想(ロイター通信調べ)の0.4%増を大幅に下回った。米インフレや消費の鈍化の兆候が見られる中、米連邦準備制度理事会が早期に利下げに動くとの観測が再び強まり、原油が買われ相場は78.63ドルへ反発しました。

●16日、朝方発表された週間新規失業保険申請件数は3週ぶりに減少。しかし、市場予想に近い水準となり、前日の消費者物価指数(CPI)の伸び鈍化をきっかけとした年内の利下げ開始期待が持続した。政策金利の引き下げは、景気を刺激するとともに、ドルの上昇を抑え、ドル建て商品の原油先物の割安感につながる可能性があり相場は79.23ドルへ続伸しました。

5月17日 16:00現在 WTI原油 79.60ドル 為替 1ドル 156.58円



	次回元売変動予測	
	5/23~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.1~+0.4
灯油	→	-0.1~+0.4
軽油	→	-0.1~+0.4
A重油	→	-0.1~+0.4
LSA	→	-0.1~+0.4

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「▲1.5円」、補助金は、「-25.1円・60%」、都合「+1.7円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの13日時点の小売価格平均は174.5円となっております。

《5月23日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「0円~0.5円」、激変緩和補助金は「-25.2円・60%」の見込みで、都合「▲0.1円~+0.4円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「±0円~+0.5円」
 ※激変緩和補助金「-25.2円」前週比-0.1円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 <エア・ウォーター、名古屋市に水素製造拠点 東海で初>

エア・ウォーターは名古屋市内に東海地区では初の水素製造拠点を開設した。東海には従来、関西にある工場から供給していた。現地生産に切り替えて域内の供給量を2倍に増やし、コスト低減にもつなげる。使用時に二酸化炭素(CO2)を出さない水素は、次世代のエネルギー源として期待されている。バスやトラックの燃料などでの需要増を見込む。

名古屋市内にある子会社の工場内に水素の製造設備を導入し、このほど稼働を始めた。エア・ウォーターとしては10カ所目の製造拠点となる。

エア・ウォーターは国内での水素供給では1割程度のシェアを持つ。天然ガスからCO2排出を抑えながら高効率で水素を精製するプラント設計に強みがある。水素は半導体や液晶、光ファイバーなどの製造工程で使われてきた。現在はCO2を排出しない次世代エネルギー源としてトラックやバスなど大型の燃料電池車(FCV)向けの引き合いが強まっている。

今後は水素を液化天然ガス(LNG)と混ぜて発電燃料にしたり、水蒸気を発生させる工場のボイラーの燃料を重油から水素に置き換えたりするといった用途も見込まれている。自動車産業など製造業が集積する東海での脱炭素での需要を見込んで生産体制を整えた。

[出典] 日経電子版

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF30B4V0Q4A430C2000000/>